

タブレットでの資料閲覧で患者の手術理解度を向上

手術図解説明をタブレットで事前閲覧することで、医師説明時間が1/3に短縮

岩井医療財団は、日本整形外科学会の全国症例数の約10%にあたる年間1,300件以上の脊椎内視鏡下手術を施している。1日7~8件の手術が行われる中、医師の手術説明時間が長引き一部の患者を待たせるケースもでていた。そこで、手術図解説明の入ったタブレットを患者に渡し事前に見てもらうことで、共通的な手術説明を代替し、患者理解度を向上するとともに医師の説明時間を約1/3にまで短縮している。

POINT

- ✓ 手術説明資料、リハビリテーション説明資料を院内のタブレットに配信
- ✓ 患者が図解資料を事前に見ることで理解度向上。医師説明も約1/3の時間に
- ✓ 今後は各病室内にもHandbookで病院紹介を配信予定



看護師から手渡されたタブレット上の手術図解資料を医師説明の前に目を通す



手術後は理学療法士からタブレットでリハビリテーションの説明を受ける



User Profile



医療法人財団 岩井医療財団
 事務局 総務課 システム担当
 広報室
古川 幸治 氏
ふるかわ ゆきひろ

医療法人財団 岩井医療財団 稲波脊椎・関節病院

所在地：〒140-0002 東京都品川区東品川3-17-5

概要：脊椎内視鏡下手術、スポーツ外傷・障害における膝（関節）疾患治療の専門医を抱え、高度で質の高い医療を実践している。

設立：2015年7月

導入時期：2015年7月

URL：http://www.iwai.com/inanami-sekitsui/



Handbook



GOOD
DESIGN

新病院「稲波脊椎・関節病院」 開設経緯

岩井医療財団の理念は「医療を通じて患者さんの幸せに資すること」「最高の医療を提供すること」、そして「常に革新的であること」だ。

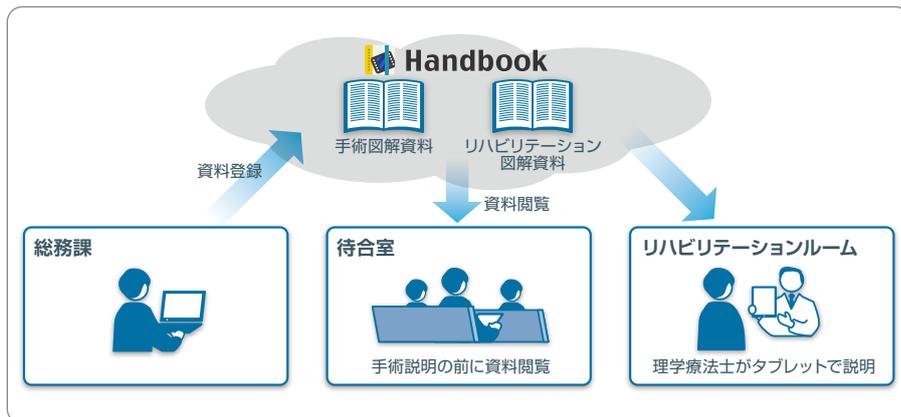
このような理念の下、岩井グループ(岩井医療財団)のひとつである岩井整形外科内科病院は、日本整形外科学会の全国症例数の約10%にあたる年間1,300件以上の脊椎内視鏡下手術を施している。近年、評判を聞きつけ東京以外の地域から訪れる患者が増え、病院のキャパシティが限界になったことから、新たに新病院「稲波脊椎・関節病院」を品川に開設する運びとなった。

新病院設立にあたり、タブレットへの 手術説明資料配信を検討

岩井整形外科内科病院では1日7~8件の手術が行われているが、医師の手術説明時間が長引くと他の患者を待たせることとなる課題を抱えていた。患者によっては30分以上の手術説明時間を要するケースもあった。

そこで、医師に口頭説明を受けるよりも、事前に図解資料をタブレットで自由に閲覧してもらい、その後不明な点を医師に質問したほうが患者にもメリットがあると考え、タブレットを1台試験導入した。しかし、岩井整形外科内科病院にはWi-Fi設備がなく、資料の同期はPCとタブレットを直接有線でつないでiTunesでファイル同期をするという手間のかかるやり方となり、これ以上のタブレット導入を進めることができずにいた。

そこで新病院では、Wi-Fi設備を整え、無線LANを使ってタブレットに手術図解資料を同期することとした。そのためのソフトウェアを検討したところ、出入りの業者よりあるソフトウェアの提案を受けたが、他にも類似製品がないか調べたところ、Handbookを知った。「当初提



案を受けたソフトウェアよりも患者さん自身が操作するのに適した直感的なユーザーインターフェースだったことに加え、料金も安かったためHandbookを採用することに決めました」と総務課 課長 システム担当の古川 幸治氏は話す。

新病院で活用がスタート 医師説明時間が1/3に

新病院オープンと同時にタブレット5台を使った手術図解資料の閲覧が開始した。新方式では、まず患者は待合室で看護師よりタブレットが手渡される。受け取ったタブレットにはHandbookアプリ上で、その患者の手術説明PDFが開かれている。患者はこのファイルを自由にスワイプ(ページめくり)しながら閲覧する。予めHandbookアプリの「スワイプで移動する」オプションをオフにしているため、該当の手術説明PDF以外のページに誤ってスワイプすることなく、患者のペースで自身の手術説明を読み込むことができる。これにより、その後の医師による説明の際には、患者共通の説明は不要となり、主に患者の質問に回答する形式で医師説明が進められるようになった。現在では従前の約1/3まで医師の説明時間が短縮しているという。また、これまでは医師ごとにまちまちの図で説明がされていたが、今は患者全員が共通の資料を閲覧でき、手術理解度

も高まっている。

リハビリテーション説明や 病室へも展開

さらにリハビリテーションの説明用にもHandbookの利用を開始した。3台のタブレットをリハビリテーション専用端末として新たに購入し、リハビリテーション説明コンテンツのみが表示されるようHandbookのアクセスコードをセットした。現在では手術が終わった患者は、理学療法士から、タブレット上の図を使いながらのリハビリテーションの説明を受けることができる。また、新病院では、各病室にすでにWindows PCが配備されている。今後このPCにもHandbookアプリをインストールし、病院の案内や先生の紹介などを配信していく。「病室にHandbookで病院紹介コンテンツを配信し、どのコンテンツを参照しているのか活用履歴を分析したい。そして患者さんがなにかに関心があるのかを調べ、患者さんへのサービスにフィードバックしていきたいと考えています」と古川氏は語る。

岩井医療財団は高度な「医療」の提供とともに、より高度な患者サービスの提供も追求し続けている。今後のさらなる患者サービス向上のため、Handbookはより一層活用されていく予定だ。



インフォテリア株式会社

〒140-0014 東京都品川区大井 1-47-1 NTビル10F
Tel 03-5718-1250 <http://www.infoteria.com/>
E-Mail: handbook@infoteria.com